

件 名	粗朶（そだ）を使った建設工事について
受付日	令和7年8月 19 日
ご意見・ご提案 の概要	夏休みの研究で粗朶について勉強したが、粗朶は広葉樹の枝を束ねたもので、昔は護岸工事でよく使用されていた。最近はコンクリート工法が増えているが、粗朶沈床工は工事費が高くなるものの、枝のすき間が生物の生息空間となるし、木の枝を使うので環境に優しい。 粗朶沈床工は、明治時代からの伝統的な工法であり、粗朶の生産は、昔は県内の至る所で行われていたが、現在は山口市のみである。 この伝統的な工法を残すためにも、粗朶を使った護岸工事を検討してほしい。
県の考え方	沈床工は、洪水による侵食から守るために設置するもので、環境及び景観保全の観点から採用される工法です。当県では、材料の調達の容易さから粗朶沈床工と同じ自然材料を活用した丸太材を利用する木工沈床工を採用している事例が多いです。 護岸工事の立案に当たっては、洪水に耐えられるように必要な川の流れの速さ、流れる水の量や川の幅、勾配などの河川特性、河川工事の経済性・施工性に加え、多自然川づくりの観点からも評価した上で、工法を決定していきます。 今後も河川工事を実施するに当たっては、よりよい「岐阜県の実然共生川づくり」を進めてまいります。
担当課	県土整備部 河川課